

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|---------|
| 氏名 | 渡 辺 圀 武 | | |
| 学位の種類 | 医 学 博 士 | | |
| 学位授与番号 | 乙 第 1760 号 | | |
| 学位授与の日付 | 昭和62年 3 月31日 | | |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） | | |
| 学位論文題目 | 大学生の肥満と脂肪肝に関する疫学的研究 | | |
| 論文審査委員 | 教授 木村郁郎 | 教授 太田善介 | 教授 青山英康 |

学位論文内容の要旨

大学生の年齢層にみられる肥満と肝機能異常，とくに脂肪肝の関係を明らかにすることを目的に，過去30年間に於ける岡山大学新入生（18才）の5年毎の合計 6,485 名の身長と体重の実態調査を行い，併せて肝機能検査〔HBs 抗原（RPHA），GOT，GPT，コリンエステラーゼ（ChE）〕と皮下脂肪厚（皮脂厚）の測定できた昭和61年度新入生 1,932 名を中心に脂肪肝の頻度を検討した。また，肥満の判定には，標準体重法として 1971 年厚生省の判定法と 1986 年厚生省の判定法を，皮脂厚法は長嶺の方法で行った。その結果，過去30年間に，新入生は男で，昭和40年代後半から肥満が急増しており，昭和60年度では 10.8 %（1971 年判定法），女では 4 %前後と低率で，年度により一定の傾向がなく，逆に最近の数年間にやせが目立った。一方，脂肪肝の頻度については，女は少なく男に多かったが，男の GOT < GPT，ChE 1.10 Δ pH 以上の群で，皮脂厚法で 85.7 %の肥満者が，2種類の標準体重法で 66.7 %，71.4 %と肥満者がおり，皮脂厚法による判定が高率であった。さらに肝エコー検査による男30名の脂肪肝者は，皮脂厚法と2種類の標準体重法で各々 86.7 %と 80.0 %，76.7 %の肥満者がおり，肥満の合併症として脂肪肝をスクリーニングするためには皮脂厚法がすぐれていた。

論文審査の結果の要旨

本研究は大学生の肥満について又脂肪肝について疫学的に研究したものであるが，従来十分検索されていなかった大学生の肥満者の変動について又肥満の判定法について検討し，昭和40年代後半より特に男に急増していることを認め，その判定として脂肪肝では皮脂厚法が有用であることを認め，重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。